

# 受講生募集！ 美術講座

日本・西洋の美術シリーズ

2026年 5月21日-6月18日、7月23日-8月27日  
(8月13日を除く) [木曜日]

- 講座 : 全10回 10:00 - 11:30
- 講師 : 北海道立近代美術館学芸員他
- 会場 : 北海道立近代美術館 講堂
- 定員 : 230名
- 受講料 : 7,000円 (アルテピア会員 : 6,000円)

\* 講座当日は近美コレクション、三岸所蔵品展を鑑賞できます。

\* 道民カレッジに講座情報を登録しています。

## 【申込・問合せ先】

〒060-0003

札幌市中央区北3条西18丁目2-7 新田ビル 2F  
一般社団法人 北海道美術館協力会(愛称アルテピア)

電話 011-644-4025

HP <http://www.artepia.or.jp>

E-mail [oubo@artepia.or.jp](mailto:oubo@artepia.or.jp)

申込締め切り 5月20日 (水)

[主催] 一般社団法人北海道美術館協力会  
[共催] 北海道立近代美術館、北海道立三岸好太郎美術館  
[後援] 札幌市、札幌市教育委員会



## 美術講座2026〈日本・西洋の美術シリーズ〉

回	月日	講座名	内容	当日鑑賞できる 展覧会
1	5/21 (木)	ガイドランス / <b>マリー・ローランサン</b> —いま、あらためてひもとく魅力。 藤原乃里子(道立近代美術館企画推進課長)	20世紀前半に活躍した画家マリー・ローランサン(1883～1956)。優しく柔かな作風は日本でも人気を博してきました。その初期から円熟期までの作品を取りあげながら、ローランサン芸術の魅力を一ひもときます。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
2	5/28 (木)	<b>三岸好太郎とモダニズム</b>  福地大輔(道立三岸好太郎美術館主任学芸員)	札幌出身の画家・三岸好太郎(1903～1934)は10年余りの短い期間でめまぐるしく画風を変転させました。好太郎の画業を通じて、日本的フォーヴィスムをはじめとする、大正・昭和初期の日本にもたらされた新興美術の潮流をさぐります。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
3	6/4 (木)	<b>聖母マリアの美術史</b> —イメージの誕生と変容  河本真夕(道立近代美術館学芸員)	キリストの母・聖母マリアは、信仰の対象であると同時に、社会の動きや民衆の思いを映しながらイメージを変容させ、西洋美術史の展開に重要な役割を果たしてきました。信仰と社会の関係に目を向けつつ、聖母像の起源、そして中世から近代に至るまでの図像変遷をたどります。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
4	6/11 (木)	<b>ジュル・パスキン—パリを舞台に</b>  光岡幸治(道立近代美術館学芸員)	エコール・ド・パリの画家ジュル・パスキン(1885～1930)は、第一次世界大戦期をはさんで、前後2回パリを舞台に制作活動を展開しました。パリに生き、自由奔放な生きざまの中で生み出されたパスキンの作品の魅力に迫ります。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
5	6/18 (木)	<b>安田 侃—抽象の力</b>  久米淳之(道立近代美術館学芸員)	2025年、「イサム・ノグチ賞」を受賞した彫刻家・安田侃(1945生まれ)。日本とイタリアを往復しながら、大理石やブロンズによる制作を続けています。故郷美唄の「安田侃彫刻美術館 アルテピアッツァ美唄」のほか、世界各地に作品が設置されています。そのかたちを生んだ想いに迫ります。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
6	7/23 (木)	<b>もっと味わう「わたしのつくりかた」</b>  熊谷麻美(道立近代美術館主任学芸員)	9月から開催する近美コレクション「わたしのつくりかた」は、北海道で活動する障害のある作家の作品と近美所蔵作品をあわせて展示する、当館初の試みとなる展覧会です。アール・ブリュット、ボーダレスアートなどとも呼ばれる、障害のある作家の作品をめぐる動向や、展覧会の見どころについてお話しします。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
7	7/30 (木)	<b>福井爽人の旅—彼方の眺め</b>  土岐美由紀(道立近代美術館主任学芸員)	1937年、旭川に生まれ、小樽、札幌で育った福井爽人。東京藝術大学で日本画を学び、日本美術院で活躍してきた画家の歩みと国内外を取材して紡ぎだされた精神性ゆたかな絵画世界を、時代背景とともに紹介します。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
8	8/6 (木)	<b>雪と美術—「雪々」と展ご紹介</b> <small>せつせつ</small> 蘭部容子(道立近代美術館リサーチ推進課長)	北国の冬につきものの「雪」。美術においても、雪や雪の結晶を取りあげた作品は数多く作られてきました。近美コレクションで1月から開催される「雪々」と展を中心に、絵画や浮世絵、ガラス、陶芸作品に登場する雪を紹介しします。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
9	8/20 (木)	<b>エミール・ガレ</b> —アール・ヌーヴォー「新しい芸術」の旗手  大石智子(道立近代美術館学芸員)	19世紀末のフランスで活躍したエミール・ガレ(1846～1904)は、植物や昆虫などの自然をモチーフにしたガラス作品で知られる、アール・ヌーヴォーを代表する作家です。ガレの生涯と作品を紹介し、ガラス工芸を日用品から芸術の域へと高めたその功績をたどります。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」
10	8/27 (木)	<b>岩橋英遠と片岡球子</b> —道立近美の草創期をめぐる作家から  奥岡茂雄氏(元道立近代美術館学芸副館長)	北海道が生んだ現代日本画の巨匠・岩橋英遠(1903～1999)と片岡球子(1905～2008)を取りあげます。北海道立近代美術館の初代学芸副館長を務めた奥岡茂雄氏が、当館の草創期より両氏と関わりをもった際の貴重な逸話を交えながら、二人の生涯と芸術についてお話しします。	・近美コレクション  ・三岸美術館「超新星 三岸好太郎・画業の きらめき」

\*講座日程・内容が都合により変更になる場合があります。